

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書

所属部局・職	霊長類研究所、PWS 履修生 1 年
氏名	戸田和弥

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
霊長類研究所
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
ゲノム実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
H26, 10/27 ~ H26, 10/31 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学、霊長類研究所
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>ゲノム実習は、屋久島実習より得たサンプルをもとに実験室で遺伝子を調べ、フィールド研究だけでは解明できなかった部分を分析する中で、遺伝的研究について学び、実験室での研究の経験を積むことを目的として行われた。</p> <p>屋久島実習に引き続き、2つのチームに別れ、実験を行った。モンキーチームは、糞サンプルから得られた、イチジク属と思われる種子の遺伝子を分析し、種を特定するため、次の工程で実験を行った。(1) 種子から、DNA を抽出し、(2) 抽出した DNA の特定の部分を、<i>rbcL</i> と ITS プライマーを用いた PCR 法により増殖させ、(3) シークエンスにかけ、塩基配列を読み込み、(4) ネット上の塩基配列と照らし合わせ、種名を絞り込んでいった。ITS プライマーではうまく特定の部分を増殖できず、<i>rbcL</i> では増殖はできたが、屋久島での同定同様、種のレベルまで特定することはできなかった。しかし、これらの種子がすべてイチジク属であることを確認できた。</p> <p>本実習で、遺伝子的研究の知見、経験を得たことは大変有意義なことであった。今井先生、岸田先生、半谷先生、澤田さんに、大変お世話になりました、厚くお礼申し上げます。また、共に実験に携わった、有賀さん、Basabose さん、Liesbeth さん、Cecile さん、横塚さん、西さん、大変ありがとうございました。</p>

日本学術振興会博士課程教育リーディングプログラム
「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」
による派遣研究者研究報告書



6. その他 (特記事項など)